モバイル利用のライフスタイル研究（2）

—保護者の介入スタイルと小中学生の ICT 利用の関係—

○栗原 俊介¹ 吉良 文夫¹ 菅原ますみ² 飽戸 弘³

¹NTTドコモ モバイル社会研究所 ²お茶の水女子大学 ³東京大学名誉教授

キーワード：スマートフォン、子ども、社会調査

1 研究目的

スマートフォン(以下、スマホ)の普及に伴い、毎日 YouTube を利用する子どもは小学 1 年から 3 割を超えており中学生になると 6 割程度に達している[1]。スマホやインターネットが子どもに浸透する中で、その影響を明らかにすることが求められている。そこで本報告では保護者の介入スタイルと小中学生の ICT 利用実態やライフスタイルの関係について明らかにするために、子どものテレビ視聴に対する保護者の介入スタイル尺度の ICT 版を作成し、それを用いて分析をした結果について考察をする。

2 調査概要

- ・調査方法：訪問留置調査（2019 年 9 月に実施）
- ・調査対象：国内在住の小中学生とその保護者 1,000 世帯
- ・調査内容：ライフスタイル変数, ICT 利用状況, 基本属性
- ・標本抽出法：層化二段抽出[クォータサンプリング法(都市規模別性別年代)]。母集団(H27 年国勢調査)の人口に基づき、7～15 歳の都市規模別人口構成比に応じて、町丁目(100 地点)を比例配分して抽出し、抽出された町丁目において、7～9 歳、10～12 歳、13～15 歳の都市規模別性別年代人口構成比に応じて個人を割り当て、該当者をランダムウォーク法で抽出。

3 分析

子どものテレビ視聴に対する保護者の介入スタイルについて、Valkenburg らは共有視聴、指示的介入、制限的介入を構成する各 5 項目の尺度を開発し[2]、菅原らにより和訳されている[3]。そこで筆者らは和訳された尺度から、テレビや番組の用語を「インターネットのサイトや動画」という文言に改訂し ICT 版として実査した。

続いて共有視聴、指示的介入、制限的介入の合成得点の平均値の差の検定から、学習目的のネット利用有無と、携帯電話利用者のフィルタリング利用有無との関連を分析した。

4 結果

まず構成項目の因子分析(主因子法, Kaiser の正規化を伴うバリマックス法)を実施したところ 3 因子の一次元性が確認された(回転後の累積寄与率は 65.0%)。それぞれ信頼性係数は共有視聴($\alpha = .930$), 指示的介入($\alpha = .919$), 制限的介入($\alpha = .820$)であった[表 1]。

続いて共有視聴、指示的介入、制限的介入の各合成得点について平均値の差の検定(対応のない t 検定)を実施した結果、共有視聴と指示的介入の合成得点は、学習目的にインターネットを利用している子の保護者の方が高い傾向がみられた(いずれも $p < .001$)。他方、制限的介入の合成得点は、有意差は見られなかったがフィルタリングを利用している子の保護者の方が高い傾向が見られた($p = .061$) [表 2]。

5 結論

子どものテレビ視聴に関する保護者の介入スタイルの ICT 版を作成し、小中学生の学習へのネット利用有無と、フィルタリング利用有無の関係を分析した結果、共有視聴と指示的介入の合計得点は、学習目的にインターネットを利用している子どもの方が高く、制限的介入の合成得点は、フィルタリングを利用している子どもの方が高い傾向が見られた。

小中学生が ICT を利用することによる機会の伸長とリスクの回避について、保護者の介入スタイルが一定の影響を与えている可能性が示唆された。

表 1. 子どものテレビ視聴に対する保護者の介入スタイル尺度(ICT 版)

共有視聴の設問	因子負荷	平均値	標準偏差
子どももあなたも好きなインターネットのサイトや動画を一緒に見る	.828	2.31	.896
子どももあなたも興味を持っているインターネットのサイトや動画を一緒に見る	.854	2.29	.897
ただ楽しむために子どもと一緒にインターネットのサイトや動画を見る	.819	2.25	.886
あなたの好きなインターネットのサイトや動画を子どもと一緒に見る	.767	2.06	.876
インターネットのサイトや動画を見て子どもと一緒に笑う	.775	2.49	.890
α 係数		.930	
指示的介入の設問	因子負荷	平均値	標準偏差
子どもが見ているインターネットのサイトや動画の内容について理解するのを手助けする	.671	2.06	.864
インターネットのサイトや動画に出てくる人がするよいことについて、その理由を説明する	.823	1.95	.833
インターネットのサイトや動画に出てくる人がする悪いことについて、その理由を説明する	.785	2.20	.934
インターネットのサイトや動画に出てくるキャラクターの真意・動機について説明する	.806	1.84	.771
インターネットのサイトや動画で映っていることの本当の意味を説明する	.801	1.92	.822
α 係数		.919	
制限的介入の設問	因子負荷	平均値	標準偏差
不適切な内容のインターネットのサイトや動画を見ていたら、消すように言う	.418	2.38	1.152
インターネットのサイトや動画を見てよい時間帯を決めている	.750	2.68	1.165
特定のインターネットのサイトや動画を見ることを禁じている	.606	2.10	1.118
インターネットのサイトや動画を見てよい時間帯(一日〇〇分など)を決めている	.798	2.64	1.189
見てよいインターネットのサイトや動画を事前に指定している	.600	2.00	1.095
α 係数		.820	

表 2. 合成得点の平均値の差の検定結果

	学習目的のネット利用有無	平均値	標準偏差
共有視聴合成得点	利用(402)	12.01	3.66
(** 利用 > 未利用)	未利用(583)	10.96	4.05
指示的介入合成得点	利用(405)	10.51	3.47
(** 利用 > 未利用)	未利用(583)	9.59	3.78
制限的介入合成得点	利用(406)	11.99	3.97
	未利用(581)	11.65	4.61

Note. *** $p < .001$

	フィルタリング利用有無	平均値	標準偏差
共有視聴の合成得点	利用(162)	12.25	3.68
	未利用(52)	11.63	4.06
指示的介入の合成得点	利用(162)	10.64	3.47
	未利用(52)	10.27	3.75
制限的介入の合成得点	利用(163)	13.09	3.96
	未利用(52)	11.90	3.91

引用文献

- [1]NTTドコモ モバイル社会研究所 (2019). ケータイ社会白書2019年版, 48-52. https://www.moba-ken.jp/whitepaper/wp19/pdf/wp19_all.pdf (2020年8月20日)
- [2]Valkenburg, P. M., Krcmar, M., Peeters, A., & Marseille, N. M. (1999). Developing a scale to assess three styles of television mediation: “restrictive mediation,” “instructional mediation,” and “social co-viewing.” *Journal of Broadcasting and Electronic Media*, 43, 52-66.
- [3]BPO 青少年委員会 (2018). 「青少年のテレビ・ラジオに対する行動・意識の関連要因に関する横断的縦断的調査研究報告書, 41-48. <https://www.bpo.gr.jp/?p=9470> (2020年8月20日)